

# 住職の佛教史 時宗 (3)

蒙古襲来があり水軍河野家はその功により再興され  
たしかしその間に祈願争いが起り一遍は聖戒をつれて  
再び聖達上人を訪れたその後信州善光寺に参籠しこ  
で二河白道しを早して本尊とした二河白道とは唐の善導  
(唐に於て浄土教思想を確立した僧)が廻回発願心の項で説いた  
救をも求める象生が貪と怒憎の火の河を真中にある  
白道を渡る東岸(穢土)から西岸(浄土)へ念佛信仰の  
具体的な譬喩である、当寺新福寺も本陣はこの  
二河白道の  
善光寺で念  
はばく事を  
によつて金  
つ南無阿弥陀仏 決定往生六十万人と云うを配り歩  
いたこれを賦算しと言ひ今日迄続して居る  
熊野山中で会った律僧に勧めたところへ今信心が起こ  
らないので受け取れなと拒否された 自分の布教方法に  
間違があるのかと、熊野証誠殿に参籠し啓示を  
あおいだ

南無阿弥陀仏 六十万人

宗祖一遍上人から今の遊行上人まで  
この丸が自らつて手で配られて居る

次回は神勅と一遍の悟りについて 住職 仁阿

## 住職の佛教史 時宗(3)

蒙古襲来があり水軍河野家はその功により再興された。

しかしその間に所領争いが起こり一遍は聖戒をつれて再び聖達聖人を訪れた。その後、信州善光寺に参籠、ここで「二河白道」を写して本尊とした。二河白道とは、唐の善導(唐に於いて浄土教思想を確立した僧)が廻回発願心の項で説いた救いを求める衆生が貪と怒憎の火の河の真中にある白道を渡る東岸(穢土)から西岸(浄土)へ念佛信仰の具体的な譬喩である。当時、新福寺も内陣はこの二河白道の思想を受けて造られている。

善光寺で念仏三昧の修業を行っていたが三年後、理論ではなく声を出して「南無阿弥陀佛」の名号を唱える事によって全ての人を救われると念佛勧進僧として「南無阿弥陀佛 決定往生六十万人」という札を配り歩いた。これを「賦算」と言い今日迄続いている。

熊野山中で会った律僧に勧めたところ「今信心が起こらないので受け取れないと拒否された。自分の布教の方法に間違いがあるのか」と「熊野証誠殿」に参籠し啓示をあおいだ。

次回は神勅と一遍の悟りについて